1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070001286
法人名	社会福祉法人　みのり会
事業所名	グループホーム　照日ケ丘
所在地	福岡県築上郡上毛町大字安雲585－44
自己評価作成日	平成27年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　アーバン・マトリックス　福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成28年3月9日	評価結果確定日	平成28年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①平屋建て、広い芝生広場等もあり、活動しやすい環境を最大限に活用し、利用者の健康維持に努めている。
②法人が今までに培ってきた地域とのつながりを活かし、施設外の活動を充実させる。
③開設以来実施している事ではあるが、希望される方には看取りも行っており、質の高い看取りが出来るように職員研修の充実を含め、力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

遠く周防灘を望む高台に位置し、広大な敷地内にゆとりをもって建てられた2ユニットのグループホームである。隣接する同法人事業所との間には広い芝生広場が設けられ、地域より多数の参加を得て盛況に開催される夏祭りや、家族交流会「ふれあいの集い」、日常的な外気浴の場としてとして活用されている。馴染みの関係やライフスタイルの継続等、個別の暮らしの継続を大切にとらえた関わりは、介護計画の内容や個別の外出支援の充実、生活感ある居室づくりからも伝わってくる。また、細やかな排泄の自立に向けたアプローチや看取りの支援等からは、確かな介護力の発揮がうかがえる。研修内容は単なる知識の習得だけでなく、多面的な考え方や地域密着型サービスとしての役割についても共有認識を図り、理念の具現化に取り組んでいる。これらの取り組みを背景としながら、人と人の関係性を大切にした自然体での対応が印象に残る。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意義を理解し、また理念をわかりやすく具現化し、共通の意識の中で取り組めるようにしている。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を掲げている。「理念の理解」や「グループホームの理解」、「これからのグループホーム」をテーマとする研修を年間計画の中に位置付け、実践に結び付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加させて頂いたり、地域の中での買い物や散歩の際は、挨拶を交わしたりしている。	小学校の運動会に参加したり、法人が中心になって開催している介護教室に職員も参加したり、地域の方が事業所の草刈を手伝ってくれたりと、互いに交流がある。特に夏祭りは地域の方を多数招待して開催される。買物は地域の商店を利用し、気軽に挨拶を交わす関係を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護者教室に参加し、相談を受けたり、適切なアドバイスが出来るように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、現状や課題に向けた取り組みを報告し、意見をいただくようにしている。	運営推進会議は、家族、民生委員、町役場職員、地域包括支援センター職員、有識者等の出席を得て、2ヶ月に1回、法人会議室にて定期開催されている。運営状況の報告や地域情報の共有の機会としても活用し、議事録から、サービス向上や活性化に向けた、活発な意見交換が行われていることがうかがえる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新時や運営推進会議の際に現状や取り組みを報告し、また担当者からも情報をいただいている。	運営推進会議には、町役場担当者及び地域包括支援センター職員の出席を得ている。また、困難事例への対応や不明な点の問い合わせ、夏祭りへの参加等、日ごろから顔の見える関係づくりの中で連携が図られている。今年の大雪の際には地域の広範囲が断水し、行政との連携の中で復旧に向けて取り組んだ経緯がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束になる介護方法を具体的にあげ、職員全員が理解できるようにしている。落ち着きのない利用者については、一緒に散歩に出かけるなどの対応を図っている。	身体拘束や高齢者虐待、職員のメンタルヘルス等について、内部研修を実施している。不意な外出の意向には同行する等の支援を行い、抑圧感の無い暮らしの継続に配慮している。環境整備の工夫や服装を記録に残す等、個別のリスクや状況に応じた対応も見られる。入居時に暮らしの継続の中にあるリスクを説明し、家族との共有認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待事例を話し合う機会を作ると共に、職員負担などにも改善の目を向けて、職員の資質向上及び精神的負担軽減を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用される方がいたため、定期的に司法書士と話し合う機会があり、また成年後見制度を利用が選択肢に入っている利用者がおられるために、常に協議している。	権利擁護に関する制度については、これまでの活用実績や必要性の検討が行われている事例もあり、関係者との協議を通じて学ぶ場面も多い。啓発資料の掲示や情報提供を行い、必要時には活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に十分な説明を行い、理解していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時には、職員から声掛けし、話を伺えるような雰囲気作りを心掛けている。意見につては、早期に日々のケアなどに反映できるようにしている。	家族との交流会「ふれあいの集い」が芝生広場にて盛況に開催され、コミュニケーションを深める機会として好評であった。日常的に家族の来訪する機会も多く、意見や要望の収集に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議や個別会議で要望や意見を言っていただき、反映できるようにしている。	１日３回（朝・昼・夕）の申し送り・カンファレンスや月に３～４回の勉強会、職員会議等を通じて、職員意見の収集に努めている。休憩場所・時間の確保等、実際に運営に反映されており、風通しの良い職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の勤務状況等を把握し、対応している。また、勤務時間については、職員の家庭環境に配慮した対応を行なっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用に関しては、性別や年齢等を採用対象から排除していない。働く職員については、一人一人の能力を認め、職場内及び地域で最大限に活躍できるように支援している。	法人としての採用となり、現在２０～７０代までの男女職員が勤務している。隣接するデイサービス事業所の休日を利用し、月２回日曜日に託児を行える体制を取り、子育て中の職員の働きやすい環境づくりとして、また、入居者との交流機会としても活用している。月に３、４回勉強会を実施し、全職員が参加できるよう配慮されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育の研修を取り入れ、利用者や職員一人ひとりを尊重できるように努めている。	高齢者虐待防止やストレスマネジメント等の外部研修参加や、内部では理念やメンタルヘルスに関する研修を実施し、職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修を月に数回実施し、職員の育成に努めている。また施設外の研修参加を事業所内で職員間相互で理解できるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京築地区福祉施設研修会や施設施設対抗バレー大会、京築ケア交流会などに参加し、地域連携を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活状況を把握し、困っているところ、こだわっているところ、不安、要望などを理解し、安心していただけるよう対応を図っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族の思いなどを担当のケアマネジャーやソーシャルワーカーなどから聞くようにしており、その後不安や要望などを伺い、受け止め、対応するようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いを理解した上で、出来る限りの対応が出来るように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力が発揮できる場面設定や役割などを決めて生活していただいている。特に昔ながらの事などでは、職員が知らない事が多く、共感したり、教えていただいた事への感謝の気持ちを大切にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活状況でご家族と情報の共有を図り、一緒に出来る事を常に探し、協力し合っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に出向き、近所の方と接する場を提供している。（知人がサービスを利用している場合には会いに行くようにしている）	これまでの馴染みの関係性について情報を収集し、行きつけの床屋や美容院の利用、お中元用の買い物、お墓参り、自宅の庭での作業、新聞の購読等、個別の支援が行われている。70年ぶりに故郷に帰り、懐かしい小学校や校歌、酒屋のあった場所等を回想する機会もあった。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で過ごせる時間や気の合った者同士で過ごせる時間などが出来るようにしており、また途中でその方々が孤立しないように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業者へ移られた場合は、支援状況を提供し、情報交換を行なっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中やご家族からの情報から以前の状況把握に努めている。	言葉等、主観的な情報も大切にとらえ、個別記録等に残している。日常の関わりの中で、担当職員を中心として個別の意向や嗜好等について聴き取りが行われ、馴染みの関係継続に向けた外出支援の充実等、暮らしの中での反映に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境の把握は、その方を知る上でとても重要な事である為、ご家族や今迄に関わったサービス事業所等から情報収集し、ケアにいかしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムやその日の状態で、出来る事を見つけ出せるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見、要望を聞き、見直しを行なっている。個人の嗜好に添った個別のケアプランになるように見直しを図っている。	地域資源の活用や馴染みの関係継続、社会参加等にも視点が確保され、個別・具体的な介護計画が作成されている。定期のモニタリングやカンファレンスを通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討している。	職員個々が持つ情報の集約や整理の方法については、今後の工夫が期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が日々の気付きについては、別に記載し、また職員間で口頭でも伝え、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の思いなどに出来るだけ添えるように、外出や外食などに家族と共に行けるようにしたり、一緒の食事や食事提供時間の変更などその場で行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携は常日頃から法人全体として行なっており、その資源を活用しながら、日々のケアに繋げている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に、今までのかかりつけ医に入所後も見ていただく事が出来る事を話している。また、かかりつけ医との連携にも配慮し、適切な対応が出来るようにしている。	これまでのかかりつけ医との関係性を大切にとらえ、受診を支援している。必要時等、家族も同行する機会を持ち、情報共有を図っている。協力医による訪問診療も実施され、適切な医療を受診できるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、利用者の健康管理及び状態変化に対応出来るようにしている。また特別養護老人ホームの看護師とも連携を図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、日頃の状況など照日ケ丘としての支援状況などをお知らせしている。また退院後の支援がスムーズにいくように入院中から病院の関係者との連携を図っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族や主治医と協議し、事業所とのして出来る事などを説明し、理解を得ている。ご家族、主治医と連携を図り、可能な限り希望がかなうように取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について明文化し、入居時の説明と意向確認を行っている。協力医や家族との密な連携を図り、看取りの支援を重ねている。状況の変化に伴い、その都度、医師と家族を交えた話し合いを重ね、方針を共有している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備し、応急手当の対応が出来るようにしている。実際に起こった後も反省をし、見直しをするようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練や消火訓練を実施している。近隣の方にも協力していただける体制を築いている。	消防署や防災業者との連携を図り、出火場所や昼夜を想定を変更し、相互の連携を確認しながら、隣接する3事業所合同で防災訓練を実施している。近隣の住宅にも協力を要請している。今年の大雪の際には周辺の広範囲が断水となり、行政との連携により復旧に取り組んだ経緯もあり、あらためて災害対策の重要性を認識する機会となった。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、言葉使いには十分配慮しているが、気が付かない事もある為、職員間で声掛けを行うようにしている。	時間の流れや居場所の確保、距離感等に配慮し、個別の支援が行われている。ゆとりある生活空間は、リビングスペースと居室スペースが緩やかに分けられ、プライバシーに配慮された造りとなっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力に合った声掛けを実施し、思いや希望などを聞き出せるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体であることを理解し、一人ひとりのその日の状態にあったサービスが出来るように、日頃より臨機応変な対応に心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝から身だしなみができるように支援している。また、入所後もなじみの美容室に行けるように支援している。また困難な方は、来ていただき、カット等を行なっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、おやつ作りを計画する際には、利用者の意見が聞き出せるようにしている。また片付けなどにも積極的に関わっていただいている。	炊飯は事業所で行い、厨房よりバランスや嗜好に配慮された食事が提供されている。セレクトメニューにも対応し、メイン料理の選択が可能となっている。月に6回程、買い物から調理、後片付けをともに行い、食のプロセスを楽しむ機会がある。七輪を使用して料理したり、季節のデザート作り、個別の外食等、充実した支援が行われている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取量を把握しており、食事が摂れなくなった際には栄養士等と相談しながら、対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を認識し、毎食後の口腔ケアを行なっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄を実施し、下剤に頼らずに排泄が出来るようにしている。	個別の排泄状況や水分摂取量、排泄動作の把握に努め、トイレでの排泄を基本として声掛けや誘導を行っている。細やかなアプローチを失禁の減少や布パンツへの移行等の成功事例へと結び付けている。日常の自然体での関わりの中で専門職として排泄ケアを重要視し、快く生活していくための本人本位のアプローチがうかがえる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らずに、水分や乳製品の摂取、運動に心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の希望を確認し、出来る限り希望に添えるようにしている。また拒否などの利用者にも時間をずらすなどの対応が可能であり、声掛けに工夫しながら対応している。	週に3回程度の入浴スケジュールは設定しているが、毎日入浴準備を行い、希望や体調、状況等にあわせて柔軟に対応している。必要な方には職員2名対応でゆっくりと入浴してもらい、柚子湯や菖蒲湯等、季節の楽しみも支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動の参加を促し、生活リズムが整うように支援している。また、夜間起きられた方には、温かい飲み物などを飲んで頂きながら話を聞くなど、安心していただけるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が利用者氏名を確認しながら、服薬援助している。また、薬の副作用を職員が理解しており、何かの際には、連携しながら対応できる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中に可能な限り役割を持っていただくようにしており、また、定期的な外出なども行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの楽しみに合わせて、買い物や外出を行なっている。また墓参りなどもご家族の協力を得ながら実施している。	高台にある広大な敷地の中に事業所は位置し、東屋が設置されている芝生広場等、日常的に外出が行える環境の中にある。配偶者が毎日訪れ、散歩に出かけたり、自宅へ蜜柑や梅の収穫や草刈りに出かける方、70年ぶりの故郷訪問が実現する等、個別の支援が行われている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、少額でも持っていただくようにしている。事務所で管理している方も買い物などの際にも自分で支払っていただくようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話が出来るように両ユニットに子機を設置している。手紙や贈り物が届いた際にはお礼の電話が出来るように支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に心掛け、季節を感じていただけるように花を飾るなど、居心地よく生活していただけるように配慮している。	生活環境の豊かさの中で環境整備への配慮が行われている。四季の変化や年中行事に応じた工夫が行われ、個別の居場所の確保等、居心地良く過ごせるよう工夫されている。ソファーや掘り炬燵のある和室コーナー、中庭の東屋等、くつろげる場所も多い。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや玄関前、外の東屋などに座れるようにソファーなどを設置しており、個別に楽しめるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた物、思いでの品物がなぜ必要なのか説明し、可能か限り持って来ていただくようにしている。（運搬も援助している）その後の設置に関しても助言しながら、環境づくりを行なっている。	ゆとりを持って配置された各居室は、洋室や和室の設定に加え、生活習慣や状況に応じて畳ボードが敷かれている。窓も2か所あり、通風や採光にも配慮されている。テーブルや椅子、鏡台、冷蔵庫等の家具や、化粧道具、書籍等が持ち込まれ、個別性と生活感が伝わってくる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物の配置等のも拘り、安全で自立した生活ができるように配慮している。		